

行政評価総評（概要）

※全事業の評価後、評価者及び公募町民参加者の方からいただいたコメントです。

諸坂委員長

本日、行政評価に参加いただいた職員の方には、行政評価というものはどのような趣旨で、また、どのようなポイントで議論していたか、もう一度考えていただき、それを踏まえて自分たちの仕事を見つめ直していただきたい。その一つのきっかけとして、本日の外部評価は意味があったと思います。

ポイントとしては、危機意識があるということをプレゼンテーションする能力が重要です。危機意識があることを心に蓄えておくのではなく、外に排出するエネルギーが必要です。どんなに素晴らしい政策を作っても、また、大磯町のためにと頑張っても、それを議員や町民の皆さんに説明し、情報発信する能力がなかったら意味がありません。

プレゼンテーションとは、今、自分たちが進めている仕事をアピールする場です。私たちが対話により良い政策を創り上げていこうとしているのですが、担当課が構えてしまっているのは柔軟な対話はできません。意識改革からプレゼンテーション能力を高め、自分たちの事業について自信を持って情報発信する、その材料をしっかりと持って望んでいただきたいと思います。

畑委員

一点目は、予算策定にあたって、庁内で議論されていなければならないような問題が多々あったような気がします。内部で予算を策定するプロセスの中で既に議論されているということが非常に重要なのではないかと思います。

二点目に全体的な見方が欠けている点です。全事業の中で、どこの位置づけされて、このような成果目標がある。だからこれで良いのだという説明を期待しているのですが、そのようなものが伺えない。縦割り行政の弊害と言ってしまうと簡単かもしれませんが、もっと町全体で議論がなされ、もっと多くの意見が出されていなければならないのではないかと思います。

三点目は、長期的な視野が欠けている点です。長期計画を策定していないという説明が多かった。長期計画があるから、今年度はこの予算が妥当ですというのは選択できますが、それがなくて今年度だけ持ち出されても評価が出来ないです。長期計画で何年度を目標にこのような姿を描こうとしていますので、今年度はこの段階であり、この目標で進めているという説明をしていただければ理解できると思います。

以上のような視点が少し欠けていると思います。視野を広げることを行政の方にお願ひしたいと思います。

増井委員

長期的な計画の位置づけが喪失していると感じました。右肩上がりではなく、少ない予算の中で事業を実施しているのですから、その事業を止めた場合にどのような影響があるかを、前年の数値を乗せていくのではなく、毎年事業を組み立て直すよう、抜本的に考え直す視点が必要と感じました。

公募町民参加者

本日参加させていただき、先生方のものの捉え方や、切り口が非常になるほどと感じる部分が多く、そのような意味で勉強させていただきました。

公募町民参加者

とても勉強になりました。町の財政状況があまり良くないという話は以前から聞いていましたが、それにしてはのんびりしている印象がとても強かったです。本日の議論の結果も後々聞いてみたいですが、他の事業にも興味をもっていきたいと思います。

公募町民参加者

職員の皆さんの意識的な改革が必要なのかと思います。日々の仕事も大変かとは思いますが、苦手な分野があるかと思います。そのような部分は行政でなくても民間や町民を巻き込んで拡充していく部分も必要かと思います。役場が抱え込むのではなく、町で抱えていくという意識を役場から発信してほしいと思いました。